

平成 2 4 年度第 2 回社会教育委員会議会議録							
開催日	平成 2 5 年 2 月 1 8 日（月）			開会時間	1 0 時 0 0 分		
会 場	市役所 4 階 研修室			閉会時間	1 1 時 4 0 分		
委員の 出欠 状況	亀卦川 誠也	出	加藤 聡司	欠	磯崎 茂	欠	
	榎本 俊明	欠	木村 聡子	出	山形 克己	出	
	柳下 雅弘	欠	石田 康雄	欠	富田 延子	出	
	○鳥飼 八五良	出	伊藤 芳夫	欠			
	村山 喜三江	出	平松 あかね	出			
	北原 節子	欠	◎ 大谷 鐵子	出	◎議長 ○副議長		
傍聴者	1 名						
事務局	【教育委員会】大久保教育長、上篠教育部長 【生涯学習課】星野次長、亀井課長補佐、中田統括主査、吉澤主事 【図書館】松戸館長 【スポーツ青少年課】河野課長、並木課長補佐、中蔦統括主査						
議 題	1 平成 2 4 年度事業中間報告及び平成 2 5 年度事業計画案について 2 社会教育推進に関する意見交換について 【テーマ 1】「いじめ問題に対して社会教育委員が地域でできること」について 【テーマ 2】「市民の生涯学習施設としての図書館の役割」について 3 その他						

1 開会

2 あいさつ

○大久保教育長

平成 2 4 年度社会教育行政に関する事業中間報告及び平成 2 5 年度事業計画案について、限られた時間ではあるが、忌憚のないご意見をちょうだいできればと考えている。

また、社会教育推進に関する意見交換についても、積極的なご意見をお伺いしたい。今後とも、社会教育行政にご協力をお願いしたい。

○事務局

市民参加条例第 1 2 条第 4 項の規定による会議公開及び要点記録による会議録の公開について説明。

3 議題

(1) 平成 2 4 年度事業中間報告及び平成 2 5 年度事業計画案について

○事務局

資料「平成２４年度事業中間報告及び平成２５年度事業計画案」に基づき説明。

○山形委員

スポーツ青少年課青少年担当の事業の中で、平成２４年度は青少年育成和光市民大会「君へのライブ」を開催予定であるが平成２５年度は実施の予定はないか。

○事務局

平成２５年度についても開催を予定しているが、主催が確定しないこともあり、現段階では資料に掲載しなかった。

今までこの事業の参加者は、和光市民だけでなく、近隣の３市からも参加している経緯がある。今後、和光市だけが主催するのではなく、朝霞地区四市が共催による開催も含め、検討を重ねている段階である。

○山形委員

若い世代にとって、日ごろの活動の成果を発表する場は、日々の目標にもなるので、ぜひ続けていただきたい。

○鳥飼副議長

平成２５年度文化財保護事業担当計画案で（仮称）午王山遺跡展・記念講演会の開催が予定されているが、その他の遺跡に関する遺跡展・記念講演会の開催は予定しないのか。

○事務局

平成２５年度については、午王山遺跡に注目した形での遺跡展・記念講演会の開催を予定している。現在、和光市文化財保護委員会にて午王山遺跡の市指定文化財への指定を審議中であり、午王山遺跡の重要性を市民に広く浸透させることを目的に、９月に開催を予定している。実施されると２年ぶりに企画展示を開催する運びとなる。

○富田委員

青少年による携帯電話等を使用したインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について、他市と情報交換を行った際に、有害情報パトロールに力を入れたほうがよいという意見が多かった。他市では、民間団体が学校の裏サイトを監視していると聞いた。子どもたちや保護者を対象に、有害情報について正しい知識を学ぶための講習会やキャンペーン等の開催について力を入れていただきたい。

和光市でも開催しているようだが、次年度以降についても開催を検討していただきたい。

また、子どもたちの居場所について、小学校高学年から高校生の放課後の居場所がないように思う。保育クラブに6年生まで通わせて欲しいという市民からの声もあるようだが、子どもの放課後の居場所については、保護者が不安に思っている部分かと思うので、そこを焦点に当てた事業展開を行ってはどうか。

放課後の居場所作りとして、市では放課後子ども教室を実施しているが、参加者は低学年が多いかと思う。高学年が魅力を感じ、今までにないような放課後の居場所があるとよい。放課後の居場所については、親がやっていかなければいけないと思うが、お願いしたい。

私自身は、保育クラブの利用については、子どもの自立も考え、現状どおり4年生までで十分かと思うが、共働きで世帯が増加し、放課後の子どもの居場所について心配している家庭もあるので、再度検討をお願いしたい。

昔は、子どもたち同士が公園で遊び、放課後を過ごしていたが、今は防犯の関係もあり、防災和光が放送されたら帰宅するという感じなので、子どもが自宅にて一人で過ごすことが課題なのかもしれない。中には、放課後塾へ行き、子どもの安心を買う家庭もあるかと思う。私自身は、近所の子どもの友達には、何かあったら、ここへ来るようにと伝え、保護者からもお願いの連絡がある。

親同士によるコミュニケーションが不足していることもあり、子どもの過ごし方に課題があるのかもしれない。

○亀卦川委員

和光国際高等学校では、学校の特色を生かし、子ども大学わこうを始め、各種講座の中で外国語に特化した講座が提供できるかと思う。

和光国際高等学校では、今年度から国際社会でリーダーとして活躍する国際人の育成を目指し、大学・研究機関・国際機関・企業等、各界の一線で活躍される方々による教養講座「和国アカデミア」を開催した。第4回目には、和光市長をお招きし、市と連携し、開催することができた。

今後も、新たな観点として、ぜひ市内の県立高等学校を利用していきたい。

○事務局

とても嬉しいご提案をいただいたので、講座の中で県立高等学校と連携し、学校の特色を生かした講座を開催させていただきたい。

和光国際高等学校とは、平成23年度にデジタルミュージアム作成時にご協力いただいた経緯もあるので、今後も連携させていただきたい。

もともと子ども大学は、NPO法人子ども大学かわごえが主体となり、開催した経緯がある。

各自治体にて、各市の大学と連携し、開催することになっているが、和光市は大学がないため、国の機関と連携し、開催する運びとなった。

市内の小学生も成長するにつれ、高等学校へ通う日がくるので、ぜひ講座の中で、高等学校の先生と触れ合う機会ができるとありがたい。

○村山委員

体育協会では既に子どもたちによる他市とのスポーツ交流を開催しているが、平成２５年度スポーツ振興担当の事業計画案では、それとは別に市が主催してスポーツ交流会を開催するのか。体育協会として協力できる部分があれば、事前にお伺いしたいので、具体的な案があれば教えて欲しい。

また、平成２４年度青少年担当事業の夏季スポーツ大会については、より多くの子どもたちに楽しんでもらいたい事業であるが、参加種目の減少や、地区によって参加数が偏っているのが、より多くの子どもたちが参加できるような仕組みができるとよい。多くの子どもたちが参加し、喜んでもらえるようにするためにも、もう少しきちっとした形で進めていただきたい。

○事務局

現在、スポーツ振興計画を策定中であり、コンセプトとして「一市民一スポーツ」を掲げ、推進できるよう検討を重ねている。具体的な施策の推進としては、平成２５年度については、佐久市・十日町市とのスポーツ交流会を市が主催となり開催を予定している。既に、体育協会が子どもたちを対象として交流会を主催し、開催しているが、同じ日に、子どもたちだけでなく、大人も含めた交流会の開催を検討している。

例えば、佐久市はマレットゴルフが盛んであるため、高齢者を対象に交流会の開催を検討している。

また、十日町市はポールウォーキングが盛んであるため、季節も考え、ファミリーを対象に開催を検討している。

ラジオ体操も含め、一市民一スポーツの観点から事業を実施していきたい。

４ 社会教育推進に関する意見交換について

(1) 「いじめ問題に対して社会教育委員が地域でできること」について

○村山委員

このテーマは、私が提案しましたが、いろいろな形で市内では地域と関わりを持っている方がいるが、それぞれがばらばらに活動しているような印象を受ける。

地域で活動されている方が、何か一つになった形で、社会教育委員としても活動に携わることができればよいと思う。社会教育委員は、それぞれの地区を担当しているわけではないので、委員が中心に地域で活動していくことは難しいかと思う。会議の出席率が低いのが、社会教育委員がまず委員としての自覚を持ち、自分たちができる活動を継続していくことがよいかと思う。

○木村委員

いじめ問題は、家庭や学校だけでは解決できない問題である。社会教育委員だけでなく、地域を巻き込んだ取り組みが必要である。和光市地域青少年を育てる

会では、子ども会の活動を中心に地域との連携を図っているが、今の子どもたちは、異学年の交流や社会との関係の希薄性が問題であるかと思う。子どもたちの社会性を育てることが重要であると考えてるので、青少年育成事業に積極的に参加してもらい、学校やクラスだけでない子どもたちの居場所があるということを広めていくことができればよいと思う。こうした交流を通じて、社会性を高めるお手伝いをさせていただきたいと考えている。

○富田委員

いじめ問題については、予防の観点が必要である。子どもたちの行動や言葉使い等、言葉の乱れが心の乱れにつながっていくと思う。いじめを未然に防ぐ方法として、親子や親同士のコミュニケーション、日ごろの子どもたちの様子をよく観察することが必要である。子どもたちの様子を見てみると、いじめなのか、それともただふざけているのか、なかなか判断が難しいが、ちょっとおかしいと思った際に、親同士が子どもの気になる部分についてコミュニケーションを取ることができれば、予防できるのではと思うことがある。

携帯電話の有害サイトを活用したいじめなど、陰湿化しており、親も分からないところでいじめが発生している。子どもたちにとっては、親には心配をかけまいと思う部分もあるかと思うので、親以外で子どもを理解してくれるような存在として、先生・友達・先輩等が、見守っていかれるようになるとよい。子どもにとって大切な人を作り、子ども自身が見つけてくれることを大切にしていきたい。友だちの悩みを聞いてあげる大人が増える活動をしていきたい。

○山形委員

いじめ問題を学校に押し付けている印象を受ける。家庭や地域はどうだったのかと思う。地域との関係が希薄になっているので、緻密にしていくことが社会教育委員としての役割なのだろうが、現状は難しいかと思う。

学校の中では、子どもたちや先生に対する心のケアがどの程度あるのか。社会教育の中で議論すべきことではないかもしれないが、子どもたちや先生の日ごろの悩みを受け止める臨床心理士や学校カウンセラーが極めて不足しているのではないかと思う。

先生自身が悩んでいても相談することができなかつたり、子どもたちも相談できなかつたりしているかと思うので、その相談を受けることができるのは、地域なのかもしれない。

地域には、さまざまな経験を積んだ世代の方、例えば団塊の世代等が多くいると思うので、それらをもっと学校で活用してもらような仕組みがあるとよい。

さまざまな事業を展開していると思うが、一線を退いた方を活用し、地域全体で子どもたちや先生のケアができればよいと思う。

○平松委員

子どもたちにとって、命・自分自身・周りも大切という意識が少ないように思う。まず、自分自身が大切な存在であり、愛されるべき存在であることを子どもたちに感じてもらいたい。NPO法人わこう子育てネットワークが主催となり、誕生学について学ぶ機会があった。性教育とは異なり、子どもの誕生によって、親も子も生まれてきたことの素晴らしさに気づけるような講座であった。ある学校では、2分の1成人式を開催している学校もある。市民向けの講座を開催しても、参加する方が限られており、なかなか小学生には行き届かないので、学校のプログラムの一つとして開催することで、全ての子どもたちに伝わり、効果があるのではないかなと思う。

現在、保育園が増加したことで、働く大人が増加していると思うが、就学後、保育クラブには入所できないという話を耳にする。また、対象学年も4年生までで、それ以降は追い出されてしまうということを知った。

近所では、両親共に遅くまで仕事のために帰宅できず、子どもが留守番をしている光景を目にするので、放課後の居場所作りが必要であると思う。わざわざ新しい建物を建てるというわけではなく、学校の空き教室を利用し、学校の先生ではなく、ボランティアの方でもいいと思うが、居場所作りができればよいと思う。

○鳥飼副議長

いじめ問題と言うと、学校ばかりが注目され、家庭についてはあまり触れられていないように思う。家庭と地域のつながりが希薄化しており、また、今の子育て世代は、親と一緒に住まないなど、交流が少ない。以前は、子どもたちが学校から帰る頃には、地域の大人が声かけをして、地域の中で会話が合った。今は、防犯の考えが強く、子どもたちが外で遊んでいる様子は余り見かけなくなってしまった。いじめ問題は、学校に任せるのではなく、地域が気になることがあれば子どもたちに声をかけ、顔見知りになることが必要かなと思う。

いじめに限らず、地域全体で子どもたちを守り、目を向けるという意識が必要である。

○大谷議長

日ごろの意識として、子どもたちの登校時になるべく外に出て、子どもたちにあいさつをするように心がけている。そうすることで、声が小さい等、子どもたちの変化を自分なりに感じ取り、気になることがあれば学校や保護者へお伝えしている。

将来を担う子どもたちのことについて、市全体で子どもたちを見守ることができればよいと思う。

○事務局

いじめが発生する前の段階として、予防的な対応が重要である。学校においても教師がいじめの予兆をいかにアンテナを張り、捉えるかということが大切であ

るが、学校でそのような予兆があるということは、家庭でもその予兆があるかと思う。そのときに、家庭で親が子どもの変容に気づき、連携が取れているか重要である。親が見逃してしまうと、学校だけでは改善は図れない。

また、何がいじめなのかということだが、文部科学省ではいじめについて定義付けをしており、いじめは、表面的・形式的に行うことなく、いじめられた児童生徒の立場に立って行うものであるとしている。暴力などの物理的ないじめだけではなく、子どもが心理的に精神的な苦痛を感じているものはいじめである。暴力だけではなく、言葉によるいじめもあることを親や子どもが理解する必要がある。

市全体で、保護者あてにいじめの調査として、子どもたちが帰宅後、保護者とのような関わりがあるか調査した。我が子がどうなのか親がきちっと捕らえて欲しいという狙いがあった。

学校から上がってくる課題として、親同士のトラブルに学校が介入していかなければいけない場面が出てきており、親同士のコミュニケーションが課題である。学校生活でのトラブルだけでなく、学校外のトラブルも含めて学校が介入していかなければならない現状がある。親同士によるトラブルが、その場で解決できないということは、地域の希薄性が大きいように思う。まず、保護者が地域に関わるという姿勢を子どもたちに見せていかないと、子どもたちは、その地域の中で解け合って生活するという事は難しいと思う。

保護者に一番考えていただきたいのは、地域の中でどのように融和を図ることができるか、これがあると学校側は助かる。

日本の学校は、全て引き受けているが、海外の学校ではそんなことない。学校は、あくまで学問をする場所である。日本は、食育も含め全て学校で行い、何かあれば学校の責任が問われてしまい、教師たちも行き詰ってしまう。

和光市では、全ての学校に教育相談員、さわやか相談員を設置。臨床心理士を常駐し、県でもそういったシステムがある。また、昨年度から産業医として校医を派遣し、教師の相談に応じるシステムを設置し、いじめを未然に防ぐことができるよう体制を整備しつつある。

また、今の子どもたちは、自己肯定感が持てないという話があったが、親が自己肯定感を持てるような関わりをしてきていない。命の大切さについて幼児期から指導してきていれば、自分に自信を持ち、周りにも関わるができると思う。

学校では、道徳や特別活動の時間に、命の大切さについてかなり取り上げている。一時的なものではなく、家庭で命の大切さについて話題として取り上げていくことが前提としてあり、その上で、学校としてカリキュラムの拡充が必要である。全てを学校で引き受けてやっていくことができるというものではない。

あいさつにしても、地域の方に子どもがあいさつするようになったと言われるが、それは地域の方にあいさつをしてもらったことによって、返せるようになったのである。地域で顔見知りになれば、コミュニケーションを図ることができるので、地域で何か課題なのか、地域で分析し、学校と連携しどういう手立てを講

ずればよいか考えていかねればありがたい。

(2) 「市民の生涯学習施設としての図書館の役割」について

○山形委員

社会教育委員として、図書館協議会委員も担っているが、現在図書館では、図書館サービス計画、第2次子ども読書活動推進計画を策定中である。和光市教育行政の基本理念・重点施策・努力事項にも、図書館について記載されているが、図書館に期待する役割、図書館にこうして欲しいというご意見があればお願いしたい。

○大谷議長

図書館の利用率は、いかがか。

○山形委員

図書館の利用率は、例年横ばいであり、30代の利用率が一番高い。これは、子育て世代が、子どもの本を借りているということが予測できるかと思う。

○平松委員

もし、図書館を建替えるなどという動きがあればだが、今の図書館は、大人が利用できるスペースと子どもが利用できるスペースが近くにある。ゆっくりしたい大人にしてみれば、子どもが声を出すと苦情につながり、保護者になるととても気になるので、ぜひスペースを離して欲しい。また、中高生が勉強をすることができるスペースが少ないので、環境が余りよくないと思う。一人ひとりが集中できるよう、つい立がある机があると理想的かと思う。

○山形委員

図書館を建替えるということはないようです。

子どもの蔵書は、館内でも多い。図書館協議会の中で、幼児に特色を出したほうがよいのではという意見もある。

○事務局

子どものスペースについては、利用者からもご意見をいただいております、トラブルの原因にもなっている。来年度予算の審議がこれからあるが、来年度については、子どもと大人のスペースを離して取り組んでいきたいと考えている。

また、ヤングアダルト世代については、座席数の増加を考えている。

勉強スペースについては、和光市図書館自体が学習スペースとしては考えておらず、調べ学習をするための施設であるという認識である。他の図書館では、生涯学習スペースとして学習スペースを設置しているところもあるが、和光市図書館としては、勉強スペースの設置は考えていないが、座席数については、増加を

検討する。

○鳥飼副議長

調べものなど、図書館で借りたものを持ち帰り、近隣の公民館に返却できるブックポストがあるのはよい。

○富田委員

図書館を利用しているが、給茶機が設置されていることはとても助かっている。

図書館への要望を子どもに聞いてみたところ、自分の読みたい本がないと言われた。子どもにとって読みたい本とは、学校の図書館で人気のある本であるが、いつも予約が入っており、借りることができないとのこと。学校で人気のある本が図書館で借りることができるとよい。

大人が読んで欲しい本と子どもが借りたい本は異なっているので、子どもが読みたい本のリサーチをしていただきたい。

絵本コーナーには、幼児が裸足で入ることができるようなスペースを作っていたきたい。子どもの頃から本を読む習慣が身に付くと、大人になってもその習慣が続き、自分の人生を豊かにすることができると思う。

本を読むことは大切なことなので、子どもの頃から本に携わっていくことができるような仕掛けがあるとよい。例えば、子どもたちの登録数の増加を狙いとしているのであれば、30冊の本を借りたら、シールやスタンプを貼るなど、子どもたちに本を読む楽しみを作るといった仕掛けがあると、わくわくする気持ちができると思うので、そういった楽しみを提案するとよいかと思う。

また、子どもたちに読んでもらいたい本については、実際にその本を読んだ子どもたちに、こんな内容が楽しかったというようなコメントを作成してもらい、掲載することで、口コミとして広がるのではないかと思う。

5 その他

6 閉会